

# PIECE×PEACE FESTA2008

信～Believe～

報告書

## 目次

- 【1】はじめに
- 【2】開催概要
- 【3】開催趣旨
- 【4】当日の様子
- 【5】レッドハンドキャンペーンについて
- 【6】募金について
- 【7】ビデオレターについて
- 【8】広報活動について
- 【9】おわりに

## 【1】はじめに

本報告書では、2008年12月に開催されたチャリティイベント「PIECE×PEACE FESTA2008 信～Believe～」について報告いたします。多くの皆様のご理解とご支援・ご協力の下、本イベントを開催することができましたことに心より御礼を申し上げます。

## 【2】開催概要

イベント名	PIECE×PEACE FESTA 2008 信～Believe～		
日時	2008年12月10日(水) 16:50～18:00		
会場	中央大学多摩キャンパス内 Cスクエア 中ホール、会議室C		
来場者数	111人	入場料	無料
プログラム	第一部「子ども兵士の一生」 第二部「身近に国際協力」 第三部「Let's action！」 *同時開催 展示会 第一部「子ども兵士を取り巻く環境」 第二部「子ども兵士の一生」		

主催	国際協力団体 PIECE×PEACE FESTA
協力	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 下村靖樹(写真提供) 加世田龍(楽曲提供) スターバックスコーヒージャパン株式会社(資料提供)
後援	外務省 八王子市教育委員会 日野市教育委員会 多摩市教育委員会
協賛	株式会社ジースタイラス 株式会社マイソフト
賛同	鬼丸昌也(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長) 下村靖樹(ジャーナリスト) 小峯茂嗣(アフリカ平和再建委員会事務局長)

### 【3】開催趣旨

現在、世界には約 30 万人の「子ども兵士」が存在すると言われています。しかし、その存在は未だ社会に広く認知されていません。私たちはイベントを通して子ども兵士の存在を伝えることで、罪のない子どもをも巻き込んでしまう戦争の悲惨さ・平和の尊さを人々に訴え、悲しみの連鎖に少しでも歯止めをかけたいと考えています。

また暗い現実がある一方で、軍隊生活から逃れ、社会復帰を目指し必死にリハビリに励んでいる元子ども兵士たちもいます。悲惨な状況の中でも希望を持って生きる元子ども兵士の姿を通して、来場者の方々にポジティブな気持ちを持って帰ってもらいたいと考えました。

今回のイベントで、私たちは「国際協力に興味はあっても行動に移していない人々」を対象としました。行動に移す機会がない、あるいは自分ひとりが行動したところで何も変わらないと感じている人たちに、自分の行動が未来を変える可能性を持っていることを信じて一歩踏み出してほしいという想いが、イベントのテーマである「信～Believe～」に込められています。

また、来場者に「信～Believe～」を感じていただくために、具体的に三つの目的を掲げました。ひとつ目は、子ども兵士を取り巻く現状をより多くの方々に知ってもらうこと、二つ目は、国際協力という敷居が高いと思われがちなものを、より身近で気軽なものに感じってもらうこと、三つ目は、実際にその場で行動を起こしてもらうことです。これらの目的を達成するために、オリジナルのプログラムを企画しました。

なお、会場には募金箱を設置し、集まった募金は、ウガンダで元子ども兵士社会復帰支援を行っている特定非営利活動法人テラ・ルネッサンスに全額寄付いたしました。

### 【4】当日の様子

#### 第一部「子ども兵士の一生」

第一部は「子ども兵士の事実を伝える」という目的の下、当団体が制作した映像の上映とプレゼンテーションを行いました。

映像では、鬼丸昌也氏の著書「ぼくは 13 歳 職業、兵士。—あなたが戦争のある村で生まれたら」で紹介されている実話をもとに、元子ども兵士の人生を映像で表現しました。反政府軍によって親を目の前で殺害された少女が、拉致され、軍隊で兵士として教育されていく様子を、写真などを用いて映像化しました。大人の兵士と強制的に結婚させられ子どもを産むなど、少女の兵士に特徴的なエピソードも紹介しました。また、軍から解放され社会復帰施設に保護された後、子どもの存在を励みに前向きにリハビリに取り組んでいく姿も描き、その力強さと「信じる先に、必ず未来があります。」というメッセージは多くの来場者の心に訴えかけました。なお、映像に使用した写真は、特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス様とジャーナリスト下村靖樹様からご提供いただきました。

プレゼンテーションでは、子ども兵士が利用されている状況や、子ども兵士が生まれる

背景、社会復帰の難しさなど、映像だけでは説明できなかった子ども兵士についての詳しい情報を紹介しました。子ども兵士は小型武器の発達などによって増加し、世界で 30 万人以上確認されていること、貧困などによる自発的な参加も多くあることなど、日本では認知度の低い子ども兵士の実態について、分かりやすく紹介しました。来場者からは「衝撃的な事実を初めて知った」「事実を知ることの大切さを実感した」といった感想をいただきました。



プレゼンテーションの様子

## 第二部「身近に国際協力」

国際協力を縁遠いと感じている人に「意外と簡単にできるんだ」「小さいことでも国際協力につながるんだ」と感じてもらいたいと考え、「国際協力を身近にする」という目的で企画したのが第二部です。寸劇を交えた進行で、場内に笑いを巻き起こしました。

まずは、仕事や日常生活の合間の空いた時間に、自分なりの形で国際協力に関わっている方にインタビューを行い、その映像を上映しました。会社員の仕事の傍ら、休日を利用して NGO の活動に参加している方や、美容師という職業を活かしてチャリティイベントに協力した方など、様々な方にそのきっかけや思いなどを伺いました。来場者アンケートでは「身近な人たちの『出来る範囲で国際協力』という姿勢に共感した」という感想をいただきました。

第二部の後半では、このようなイベント等で集められた募金が、どのようにして現地に届けられるのかをプレゼンテーション形式で紹介しました。募金は気軽にできる国際協力の形ではあるものの、使途の透明性確保が重要な課題となっています。そこで、私たちの団体が皆様から預かった募金がどのように役立っているのかを紹介することで、来場者の皆様により安心して募金にご協力いただけたと考え、このプログラムを企画しました。

2008 年 8 月に私たちが横浜で開催したチャリティフットサル大会を例として、そこで得た収益がどのように役立ったかを紹介しました。募金先のテラ・ルネッサンスでは食料・医療費の支給に募金の 43%、能力向上支援に 32%、カウンセリングに 13%、所得向上に 12%が使われており、その他に送金手数料が 7000 円かかるということでした。

「募金の過程、送金する際のコストが分かって良かった」という声の一方、「『七千円手数料がかかる』からどうすべきなのかを考えるべきではないのか」というご意見もいただきました。



募金の使われ方を紹介

### 第三部「Let's action！」

第一部で事実を知り、第二部で国際協力が少し身近なものになったところで、実際に行動を起こしてもらうことが第三部の目的です。来場者の皆様に参加していただき、ウガンダの元子ども兵士とその子どもたち（※）に向けたビデオレターを撮影しました。一人ひとりにパズルピース型のパネルをお配りし、それを音楽に合わせて掲げることで平和へのメッセージを表現しました。アフリカの貧困撲滅のために作られた楽曲「We Are The World」を合唱しながら、ウガンダの国旗とスマイルマークを会場の皆様と作り上げました。

撮影した映像は後日当団体メンバーが編集した後、テラ・ルネッサンスが運営する元子ども兵士リハビリセンターへ届け、上映会を行いました。その様子は「【7】ビデオレターについて」でご紹介します。

※テラ・ルネッサンスのリハビリセンターでは、元少女兵と大人の兵士との間に生まれた子どもたちに対するケアも行われており、子どもたちの成長は母親である元少女兵たちの心の支えとなっています。



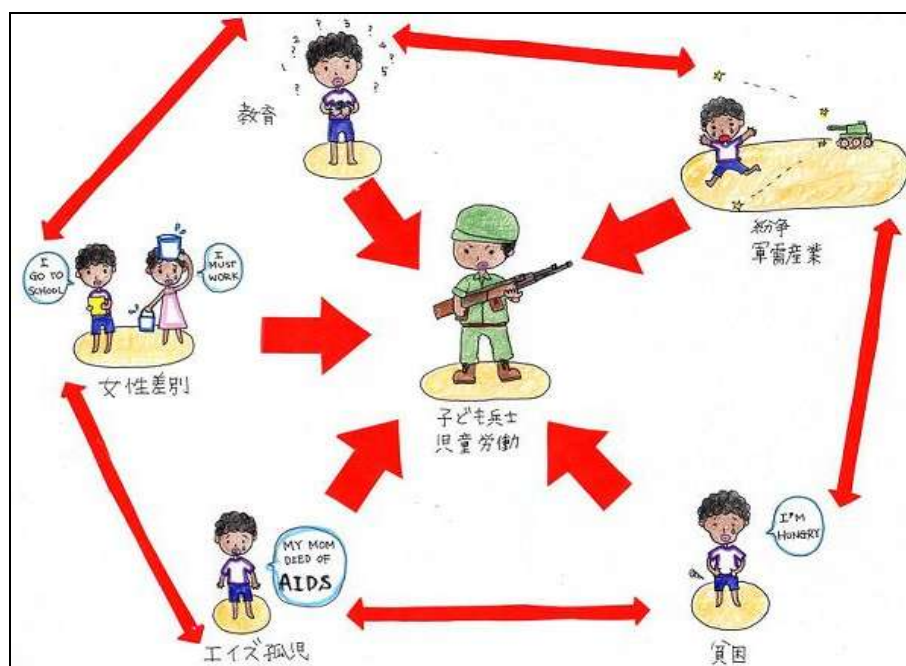
ステージ上の司会者



会場に大きなスマイルマークを作りました

## 展示会 第一部「子ども兵士を取り巻く環境」

別室にて展示会を同時開催しました。展示会はホールでのイベント開演前と開演後で時間を分け、二部構成としました。第一部では、紛争・軍需産業、貧困、エイズ孤児、女性差別、教育といった諸問題を取り上げ、それぞれと子ども兵士問題とのつながりを説明する展示を掲示しました。また、一部・二部を通して「レッドハンドキャンペーン」に参加する署名コーナーを設置しました。その様子と報告については「【5】レッドハンドキャンペーンについて」をご覧ください。なお、展示会制作にあたり、スターバックスコーヒージャパン株式会社様に展示用のコーヒー豆とリーフレットをご提供いただきました。



展示会第一部の見取り図

## 展示会 第二部「子ども兵士の一生」

第二部はイベント内容のおさらいと説明を中心とし、イベントに間に合わず参加できなかった人でも子ども兵士問題を理解できるよう、また、イベントに参加した方がさらに興味を深められるように工夫しました。また、2007年8～9月にウガンダへ旅行した当団体メンバーによる展示コーナーも設けました。



展示会第二部の様子



## 【5】レッドハンドキャンペーンについて

Red Hand Campaign(レッドハンドキャンペーン)とは、イギリスに本部を置く非営利団体(NGO)のネットワーク International Coalition to Stop the Use of Child Soldiers(子ども兵士使用禁止のための国際的な連合)が主催する、子ども兵士使用に反対するためのキャンペーンです。この団体には、ワールドビジョンやアムネスティなど世界的に活動している NGO 等が参加しています。

団体では毎年2月12日をレッドハンドデイとし、赤い手形による署名を集める活動を通して子ども兵士の廃絶を訴えています。2009年のレッドハンドデイには、世界中で集められた25万人分の署名を国連に提出しました。

この活動に参加する形で、イベント当日、来場者の方に手形による署名をお願いしました。皆様のご協力のおかげで、イベント後に学生に呼び掛けたものも合わせ110人分の署名を集めることができ、それらは当団体メンバーがレッドハンドキャンペーンの東京事務所へ直接届けました。東京事務所に持ち込まれた署名の中では最大規模だったそうで、事務員の方からは非常に歓迎されました。署名は事務所を通じてロンドンの本部へと送られました。



当日の署名コーナーの様子

## 【6】募金について

本イベントで集まった募金は、合計56,159円でした。皆様のご協力誠にありがとうございました。これらは2009年2月6日付で、全額をテラ・ルネッサンスのウガンダ・元子ども兵士社会復帰支援プロジェクトに寄付いたしました。使い道については、「【4】当日の様子」の中の第二部「身近に国際協力」を参考にご覧ください。

## 【7】ビデオレターについて

第三部「Let's action!」の中で、来場者の皆様にご協力いただき撮影した映像は、日本の生活が分かるような写真とともに編集してDVDにしました。当団体メンバーが、テラ・ルネッサンスが運営する元子ども兵士リハビリ施設(ウガンダ北部・グル)を訪問した際にそのDVDを持参し、現地スタッフの皆様のご協力のもと、元子ども兵士とその子どもたちの



前で上映することができました。

上映会は、子どもたちを中心とした 100 人ほどの会場で行いました。初めは皆静かに映像を見ていたものの徐々に盛り上がり楽しんでいる様子で、特にウガンダの国旗が出てきた時の子どもたちの反応は大きいものでした。会場からは、「遠い日本でこれだけ多くの方が自分たちを思ってくれることが嬉しい」という感想や、子どもたちから「日本では雪が降るんだ」、「緑が多くて平和そうな国だ」という感想が聞かれました。また、「私たちは肌の色も違うし違う国の人間だけど、同じ世界に生きている同じ人間だ」と言ってくれた子どももいました。

約 4 分間の映像は全て上映することができましたが、機器の都合上、音声や画像が乱れてしまう部分があり、今後同じような機会があった場合に向けての課題となりました。



ビデオレターを見る子どもたち

## 【8】広報活動について

### 広報実績

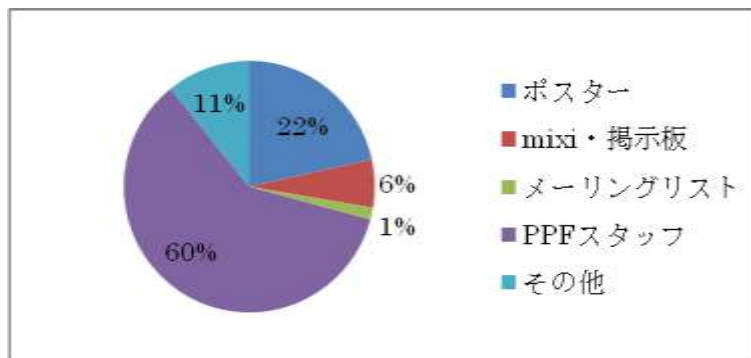
ポスター	113 部
チラシ	1400 部
テレビ出演・広告掲出	八王子テレメディア 日野ケーブルテレビ
ラジオ出演	FM多摩放送
テレビ取材	日野ケーブルテレビ
新聞取材	朝日新聞(12月10日朝刊) 毎日新聞(12月12日朝刊)

### 効果

来場者アンケートを元に、どの広告媒体が来場につながったのかを集計しました。以下のグラフから、当団体スタッフによる口コミが圧倒的多数であること、その一方でポスターが来場のきっかけになることも多く見られることが分かります。今後はこれら二つの媒体の一層の強化に加え、現在は 6%にとどまっている mixi や掲示板といったウェブ上の広



告掲載の方法を工夫することで、集客増化を図ることができると考えられます。



アンケート結果(その他には「友人から」「当日の新聞記事」が含まれます)

### 【9】おわりに

このイベントは、国際協力に興味はあるけれど一歩踏み出していない人にきっかけを提供することを目的に企画されました。私たちにできることは小さいかもしれませんが、ご来場いただいた方々の心に少しでも想いの変化を残せたとしたら、そしてその変化を更なる行動へとつなげてもらえたとしたら、私たちにとってこれ以上の幸いはありません。

最後になりましたが、今回のイベントは、私たちの活動に多大なるご理解を示していただいた協賛企業各社の皆様をはじめ、特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス様ならびに鬼丸昌也様、そして開催までにご協力をいただいた多くの皆様のおかげで実現することができました。そして、当日は 100 名を超える方々にお忙しい中ご来場いただきました。誠にありがとうございました。当イベントに関わってくださった全ての皆様に心より御礼を申し上げます。今後も、私たちの活動に変わらぬご支援をお願いいたします。

国際協力団体 PIECE×PEACE FESTA  
2008 年度代表 横井 恵子  
MAIL : [piece-peace-festa@hotmail.co.jp](mailto:piece-peace-festa@hotmail.co.jp)  
HP : <http://piecepeacefesta.mikosi.com/>